

美浜町地区別まちづくりワークショップ

報 告 書

平成 24 年 3 月

美 浜 町

日本福祉大学福祉社会開発研究所
まちづくり研究センター

はしがき

美浜町では、第5次美浜町総合計画の策定にあたり、地域に関わる様々な立場の住民が中心となり、地域の資源や課題を発見し、再評価しながら、住民一人ひとりが「これからも住み続けたい」と実感できるまちづくりの方向性を議論するために、まちづくりワークショップとまちづくりミニフォーラムを開催した。具体的には、美浜町内の6地区を対象とした『地区別まちづくりワークショップ』、美浜町の将来を担う中学生を対象とした『まちづくり次世代ワークショップ』、美浜町内で活動する生産・経済団体と住民団体を対象とした『まちづくりミニフォーラム』である。

地区別まちづくりワークショップでは、美浜町内の小学校区（6地区）に分かれ、住民が自ら地区の現状をふりかえり、地区の特徴を考えながら、まちづくりの目標設定と具体的な行動アイデアの検討に取り組んだ。住民の参加者は131名であった。また、日本福祉大学の教職員20名が参加し、町内外の視点から様々な意見交換が行われた。全体報告会では、地区別で行われた議論の成果を全体で共有し、住民参画によるまちづくりへの機運を高めた。

美浜町地区別まちづくりワークショップ

① ワークショップとは

ワークショップとは、直訳すれば仕事場や作業場であるが、同時に、研究集会や研修なども意味する。ワークショップは、もともと演劇の分野では広く行われてきた手法であるが、まちづくりの分野でも頻繁に実施されている。

まちづくりワークショップは、まちづくりに広く関心のある住民の方が、老若男女、年齢、職業などの社会的階層を問わず、地域の優れた資源を再発見したり、地域が抱えている問題点を議論して、これからのまちづくりのあり方を考えていくものである。

② ワークショップの開催趣旨

地区別まちづくりワークショップは、第5次美浜町総合計画の策定に向け、地域に潜在する資源を発見し課題を見直しながら、住民一人ひとりが「これからも住み続けたい」と実感できるまちづくりの方向性を議論するために開催した。

③ ワークショップの進め方

美浜町内を小学校区（6地区）に分け、6地区合同の全体会1回、地区別まちづくりワークショップ2回、6地区合同の全体報告会1回の延べ14回にわたって開催した。地区別の開催日程は表1のとおりである。

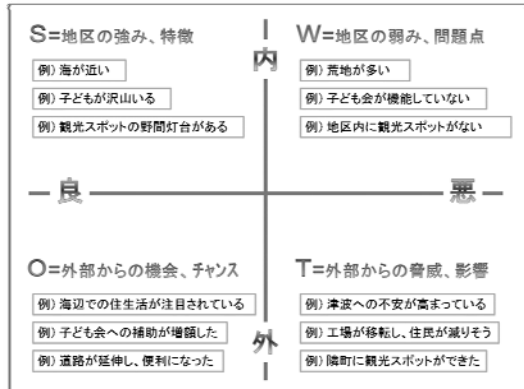
表1 開催日程

地区名	第1回	第2回	第3回	第4回
布土地区	11/5（土）	11/15（火）	11/30（水）	3/3（土）
河和地区		11/11（金）	12/1（木）	
河和南部地区		11/10（木）	12/2（金）	
野間地区		11/16（水）	12/7（水）	
奥田地区		11/17（木）	12/9（金）	
上野間地区		11/25（金）	12/15（木）	

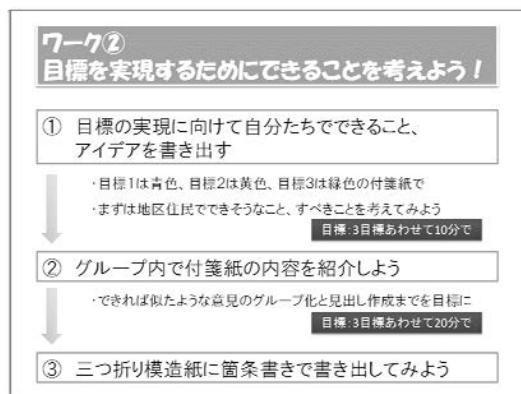
※時間はいずれも19時～21時とし、各地区公民館等で開催した。

ワークショップの流れ

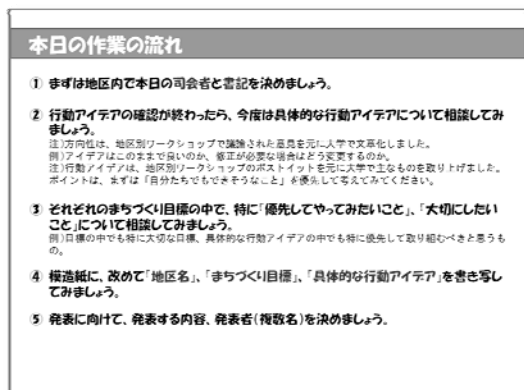
① 第1回 SWOT分析を用いて地区の強み、弱みを考える（全体会）



② 第2回・第3回 地区の特徴から、地区のまちづくり目標を考える（地区別）



③ 第4回 まちづくり目標から具体的な行動アイデアを整理する（全体報告会）



●布土地区のまちづくり目標

布土地区は、自然が豊かで農業が盛んな地区である。一方で、耕作放棄地が増加していることから、「農」を通じた交流活動を住民が主体的に取り組み、住民同士が絆でつながった温かい地区を目指す。

① 子どもから高齢者までが住み続けたいと思える地区づくりを大切にします

- ・ 地区住民が助け合い、つながりのある地区にする
- ・ 子育て環境の充実やあいさつ運動を展開し元気な地区にする
- ・ 子どもからお年寄りまで地区内でサポートする

② 地区住民が住民相互の絆を高め、助け合いを促す場や機会を創出します

- ・ 行事を通じて、地区住民の連携を深める
- ・ みんなが集まれる行事を通じて、確かなつながりや絆を構築する
- ・ 伝統ある祭りを続けながら、新しい人も参加できる行事に変える

③ 都会の人（観光者）に「第二のふるさと」と呼ばれるような「布土ブランド」を創出します

- ・ 布土地区らしさを前面に出し、様々な活動に取り組む
- ・ 農地、町並み、山車祭りなど地区の特徴を発信する
- ・ 地区内にある農地や空家を有効に活用し、地区を活性化させる

●まちづくりの具体的な行動アイデア

① 防災に強い『まち』

- ・ 防災訓練の開催 ⇒ 住民間の「つながり」をつくる

② ボランティア制度がある『まち』

- ・ 空き家を利用した公民館とは異なる集会所の設置

③ ひとが集まる『まち』

- ・ 都会の人を巻き込んだ企画・イベントの開催
(炭焼き体験、ハイキング、グリーンツーリズムなど)



① 地区の強み・弱みを考える

強み (S)

- ・花の寺がある（5つ寺がある）
- ・障がい者施設がある、自然が多い
- ・海や里山が美しい、海が近くにある
- ・信号が少ない、主食の米は自給できる町
- ・小学校は環境の良い所にある
- ・近所の人の顔がわかる
- ・家族構成をよく知っている
- ・田舎が多く静かな環境、田畑が多い
- ・区民運動会等皆で力を合わせる会があり大変良い、小学校と地区が連携している
- ・売っている魚の種類が多い
- ・オレンジライン、「う」の山、物価
- ・野鳥がたくさんいる、祭りがある
- ・里山がある、潮干狩り、町が静か
- ・農作物が豊富に有る、
- ・公園がすぐある、朝日（初日出）が美しい

弱み (W)

- ・子どもが少ない、年金生活者が増えた
- ・観光スポットがない、特産物がない
- ・調整地区の為農家の子ども以外家が建てられない、学童がない
- ・高齢者の死亡により人数が減少人口が増えない見込み、暴走族、商店が少ない
- ・食料品を売るお店が近くにない
- ・道路が整備されていない（布土小から国道へ）、道路が狭い、調整区域が多い
- ・家を建てる所がほしい！、託児所がほしい

機会 (O)

- ・竹すみをやっている？、里山の活動がある
- ・保育園の近くに新しい住宅が建った
- ・保育所に乳児室がやっとできる
- ・買物ができにくい、運動会を行っていません
- ・週末の観光客、声かけが少ない
- ・他にはないロケーション
- ・最近となりづき合いがへってきた
- ・河和口駅に特急が止まり利用しやすい
- ・「農」への注目、あいさつができない

脅威 (T)

- ・南へ行く観光客で道路が渋滞する
- ・クリニックが少ない、働く場所が少ない
- ・津波への不安がある、
- ・町外に買い物に出て行く
- ・台風が不安、歩かなくなった
- ・布土駅がなくなった、工場がない
- ・若い人が働ける場が無い、大型量販店
- ・団地が少ない、人口の流入が少ない
- ・商店が少ない、観光スポットがない

② 地区の特徴（特色）を考える

○自然が豊かで心のせんたくができる町

- ・静かな環境で住みやすい
- ・星がきれいな町

○心の畑を耕せる町

- ・土の上をたくさん歩け
- ・生きていることを実感できる
- ・エネルギーをもらえる

○海と里山を身近に感じることができる町

- ・ふと立ち寄りたくなる
- ・美しい農村風景が今も残る

○人と人とのつながりが濃く祭りがさかんな町

- ・心のせんたくができる

○祭りが残っている

- ・伝統文化（山車まつり）の地区

○街灯が少ない

- ・夜が暗い
- ・日中人が少ない

○豊かな里山が残る

- ・四季を楽しむ
- ・地区外から農業をやりにくる

○道が狭い

○子どもにやさしい

○農地と自然が多くある

○祭・運動会等区民が参加できる行事がある

- ・地域のつながり
- ・祭り
- ・運動会

○住民が集う地区

○子どもの少ない地区

○商店の減少と高齢化・人口減を止めたい

- ・生活が不便

③ 地区のまちづくり目標を考える

△布土ブランドをつくる

- ・第2のふるさと
- ・都会の人のいやしブランド
- ・居場所づくり

△伝統行事を大切にし、人と人とのつながりを高めたい

- ・祭りを大切に作る

△子どもが布土に住みたいと思われる町

- ・布土で育ったこと、暮らしを誇りに思う
- ・いつか住みたいと言ってもらいたい

△安全・安心

- ・防災組織の立ち上げ
- ・独居老人を守るには

△つながり・きずな

- ・大きな声であいさつ（コミュニティ強化）
- ・まつりや運動会、盆おどりで学区民の絆づくり

△美しい町

- ・他市町村からも多く人を呼べるように
- ・耕作放棄地のない農村風景、若者の農業参入

△いつまでも元気な

- ・身体に良い食習慣、適度な運動

△行事に参加しよう、ふやそう

- ・地域のつながりを大切に作る人が多い町
- ・集える場所

△地域で助け合える町

- ・生活しても楽しいと思える町
- ・人の役に立っていると思える住民がたくさんいる町
- ・登録制度等やりたい気持ちを実現できるシステム

△若者が住みたくなる町

- ・若い人が多い町
- ・子どもを育てやすい

④ 目標実現のアイデアを考える

□子供から高齢者までが住み続けたいと思える地区づくりを大切にします

- ・お互いを思いやり助け合う心
- ・住民1人1人が役割を持てるように
- ・独居高齢者が生活に便利のように移動販売車が布土に来る
- ・お店、サービスなどのマップ作り
- ・人々が集まれる居場所を作り運営する
- ・託児所や学童保育で子育て支援
- ・人と人とのつながり助け合いを大切に行事を多く作る
- ・耕作放棄地を利用して子供と高齢者共に物作り（農作物）する場を提供
- ・ボランティアを気軽に作って高齢者の医者通いのお手伝いなどに
- ・子ども高齢者に「声掛け」「あいさつ」をする運動
- ・集会所が各地区に欲しい
- ・遊べる場所が欲しい
- ・ラジオ体操月1回（みんなが集える）
- ・一人暮らしの高齢者も集まれる場所をつくる
- ・地域内ボランティアの制度化
- ・公園デビュー

□地区住民が住民相互の絆を高め、助け合いを促す場や機会を創出します

- ・地産地消の推進
- ・小学校と地域連携の企画
- ・毎月住民が参加する行事を設定する
- ・定期的に防災訓練をコミュニティ単位で実施
- ・ラジオ体操+朝市
- ・小公園作り
- ・農作物の青空市場
- ・まつり、消防団など様々な年代のつながりを大切に
- ・昔ながらのコミュニティ
- ・祭りや運動会や盆踊りなどもっと区民が参加するように工夫する
- ・公民館での活動など広い世代で活用されるようにしていく
- ・布土の歴史写真集を各家庭より持ちより編集して創る
- ・子供と大人の農業体験
- ・「布土の畑」を作る→収穫祭
- ・「大布土大学」の開講
- ・防犯意識が高くなる程閉鎖的になっている
- ・住民が参加できる行事を行う
- ・伝統継続
- ・祭りを続ける
- ・区に入っていく人の参加促進
- ・世代を超えた交流
- ・学童保育の充実

□都会の人（観光者）に「第二のふるさと」と呼ばれるような「布土ブランド」を創出します

- ・海をきれいにしよう
- ・たけすみの継続
- ・長期の休みに都会の子を受け入れる
- ・名物料理をアピールする
- ・いろいろな企画を出す
- ・山車まつり
- ・バーベキューなどのデモンストラーション
- ・喬木村のリンゴ狩りのような
- ・布土、上野間の間の田畑を荒らさない区民で耕運
- ・春、秋の草刈り、冬の野焼きは区で継続
- ・魅力あるウォーキングができるように
- ・海岸をきれいに
- ・町並みをきれいにしよう
- ・他の市町村にない「もの」
- ・布土だからこそそのポイントをつくる
- ・布土のささいなことを情報発信
- ・グリーンツーリズム
- ・野菜の無人販売
- ・貸し農園
- ・空き家の活用

参加者一覧

1	飯味孝夫
2	伊藤拓道
3	稲生弘徳
4	大井 勉
5	岡本径子
6	鯉江 功
7	近藤れい子
8	榊原敏治
9	榊原二郎
10	重野孝子
11	杉浦 剛
12	茶谷一津代
13	茶谷賢仕
14	茶谷佳宏
15	久田千恵子
16	肥田正樹
17	平野千恵
18	藤井典子
19	古居晴代
20	水野一弘
21	水野貴美子
22	森川美保
23	毛受惠美子

※50 音順

ワークショップの様子



●河和地区のまちづくり目標

河和地区は、町の玄関口として居住者も往来する人も多い地区である。生活環境や利便性は比較的高い一方で、高齢化も進行している。そのため、住民が互いに助け合いながら、より快適な生活が送れる地区を目指す。

① 海と山のめぐみを活かし、住みたくなる街、行きたくなる町にします

- ・ 農、海などの地域資源を活かした観光を盛り上げる
- ・ 地区外の人が訪れる素敵なまちにする
- ・ 地域の特徴や資源を有効活用し、魅力をどんどん発信する

② 新しい絆を育み、世代を超えて、いきいきと町づくりに参加します

- ・ 様々な地区にある絆を活かしたまちづくりに取り組む
- ・ 住民が主体的に、何事にも取り組むことができる環境を整える
- ・ 子どもからお年寄りまで、世代を超えた交流が生まれる環境を整備する

③ 「子育てしやすい河和」を合言葉に、子どもを守り育てる環境をつくります

- ・ 地区住民みんなが堅い絆で結ばれ、みんなで住み良い地区をつくる
- ・ 地区住民みんなで子育てに関わる雰囲気をつくる
- ・ 子どもからお年寄りまで、世代を超えた交流が生まれる環境を整備する

●まちづくりの具体的な行動アイデア

① 果樹園のオーナーを募集する

遊休農地を活用して市民農園に取り組む

② 女性や転入者も巻き込んだ地域住民防災会議を発足させ、防災意識の醸成を図る（女性、消防団 0B も参加した消防団の再編成）

防犯意識の醸成を図る。

③ 学校内で学校保育に取り組む

知多厚生病院の小児科を拡充させる



① 地区の強み・弱みを考える

強み (S)

- ・美しい海や里山があり、自然が豊か
- ・潮干狩り・ミカン狩り
- ・スナメリが生息、カッパ伝説もある
- ・名古屋から45分、観光船も出る
- ・病院・保健センターがある
- ・スーパーがあり、買い物便利
- ・隣近所仲良く付き合い、つながりが強い
- ・隣組組織
- ・伝統ある山車がある
- ・食べ物がおいしい、魚介類が安い
- ・えびせんの里、花火大会
- ・女性の区会議員がいる

弱み (W)

- ・海岸が汚い、新江川も汚い
- ・夜は暗い
- ・放課後児童クラブがない、子どもが減少
- ・引っ越してきた人が馴染みにくい
- ・地区の活力がない、地元商店が衰退
- ・駅前の道路が渋滞、地区内の道路が狭い
- ・働く場が少ない
- ・集える場所がない

機会 (O)

- ・盆踊りなどのにぎわい
- ・恵まれた海の幸
- ・病院や老人保健施設
- ・休耕田や未利用地が活用できる可能性
- ・ドラマのロケ地となった
- ・便利な鉄道

脅威 (T)

- ・防波堤が傷んでいる
- ・地すべりや津波の危険性がある
- ・避難所がせまい
- ・情報インフラが未整備
- ・子育て支援が弱く、若い夫婦が来ない
- ・商店がない
- ・高齢化
- ・耕作放棄地

② 地区の特徴 (特色) を考える

○美浜町の中心

- ・病院、スーパー、交通
- ・離島への玄関口

○子育て環境が最高

- ・中高生の元気なあいさつ
- ・野菜、魚、果物豊富、自然豊か
- ・古いものも残り、懐かしさ

○人情に厚いまち

- ・やさしい人、あいさつがしっかり
- ・隣組の仲がよい

○河和区レディー6 (女声の反映)

- ・女性区会議員が6名もいる

○人に優しい町

- ・あたたかい人、町

○坂と路地の町

○歴史にあふれた町

- ・城があった

○庚申講がまだ残るほど人と人の連り強い

- ・人がやさしい、親切

○新江川がEM菌のおかげで美しくなった

- ・EM菌の取り組みが盛ん

○野菜がおいしい、魚がおいしい

- ・食べ物がおいしい

③ 地区のまちづくり目標を考える

△河和ベッドタウン構想

- ・道路などアクセスのさらなる整備
- ・子育て環境の整備充実
- ・福祉環境の充実→福祉タウン河和へ
- ・うるおいがあり、若者も住みたくするまち
- ・休耕田を利用したオーナー制度
- ・漁業体験、海辺の暮らし、ロハスな生活

△防災力を備える

- ・災害に強いまちづくり
- ・消防団の再編
- ・高齢者にもやさしいまち

△立ち止まりたくするまち

- ・シニアも遊べるまち
- ・自分たちで創るまち
- ・まちを大切に作る気持ちを育む
- ・カッパを生かした観光振興

△年齢を超えた絆づくり

- ・テーマを持ったご近所の底力
- ・隣組同士の結束、新住民の参加

△住民にやさしい行政

- ・住民の声が反映できる
- ・女性の声が受け入れられる

△子供の声が響くまち

- ・学童保育や子育てサポートの充実
- ・子どもの笑顔

△住んでみたいまち

- ・若者の参加
- ・都会からの留学

△心をつなぐ道

- ・花があふれる
- ・ゴミゼロ

△歴史を継承するまち

- ・お城山の公園化

△食と健康のまち

- ・おいしい食べ物、みはまっこ



④ 目標実現のアイデアを考える

□海と山のめぐみを活かし、住みたくする街、行きたくする町にします

- ・休耕田をなくす
- ・プロの指導付市民農園
- ・みかんの木のオーナー制度の確立、オーナー募集
- ・漁業体験の出来る美しい海
- ・住民の手で海、山の定期清掃活動
- ・花のある街
- ・荒れた畑を利用して観光農園
- ・観光船乗り場の充実
- ・名所自慢のPR
- ・環境づくりの成果をPR
- ・海や畑でとれる物のブランド化(付加価値)
- ・河和港のハゼ釣り大会
- ・河和クライガルデン施設
- ・農業センター公園のような農とふれあえる場所
- ・ふるさとクーポン券
- ・各家庭でプランター等の鉢植え
- ・テトラの上に歩道
- ・釣り場の整備
- ・海岸道路の遊歩道化
- ・カッパに続く子ガッパストリート
- ・知多四国巡礼の整備と宣伝
- ・「南吉のぼった坂」「南吉の恋の小屋」の整備
- ・電柱の地中下

□新しい絆を育み、世代を超えて、いきいきと町づくりに参加します

- ・定住できる雇用の場
- ・絆が深まる環境づくり
- ・安心して住める町づくり
- ・若い人をひっぱり出す
- ・住民の手で花と緑に囲まれた町
- ・グループ活動の活性化
- ・人々が集える場の確保
- ・住民防災会議の発足と防災意識の醸成
- ・シルバー人材センターの活用
- ・隣組組織の充実(隣組への声掛け)
- ・祭礼行事に老人から子どもまでの参加
- ・新しい事を若い人たちにやらせる
- ・女性や新しく入ってきた人たちにも参画の場に促す
- ・トワイライトスクール(世代間交流高齢者が講師に)
- ・街コンでカップル誕生
- ・おもちゃ病院(年配の方と子どものふれあい)
- ・小学校で町の伝統文化にふれる取組
- ・昔ながらの技術や趣味を活かしたグループ作り

□「子育てしやすい河和」を合言葉に、子どもを守り育てる環境をつくれます

- ・子どもと老人と一緒に遊べる場所作り
- ・若い母親とのコミュニケーション
- ・出産から育児に支援が得られる環境
- ・小中学生への声掛け
- ・夜廻り活動の実施
- ・孤立しやすい転入者、産婦への声掛け
- ・児童公園の整備
- ・地域住民有志による子育て支援団体
- ・小学校の一室でいいから、とりあえず学童保育
- ・高齢者の知恵や経験を子育てに活かす場づくり
- ・ファミリーサポートをやってみる
- ・おばあちゃんの知恵袋塾
- ・おじいちゃん、おばあちゃんの子育て講座を開く
- ・保育所の一角に老人サロンを作る
- ・子育て世代の意識の掘り起こし
- ・他人の子どもでも叱る、褒める勇気を持つ
- ・各小学校に学童保育を開く
- ・おもちゃ図書館
- ・農業センター
- ・大規模な子ども公園の整備
- ・子どもを安心して遊ばせれる公園作り

河和地区参加者一覧

1	荒井勝彦
2	磯貝尚美
3	岩本隆徳
4	大寄暁美
5	小笠原政美
6	加藤昌宏
7	小島鈴香
8	小林喜恵
9	榊原繁雄
10	鈴木寛三
11	相馬翼也
12	高橋啓子
13	高橋 誠
14	戸田典博
15	鳥居恭行
16	中村温子
17	長山奎二郎
18	八谷順子
19	八谷政代
20	服部 正
21	日比やす子
22	平野広之
23	富谷昌子
24	水谷治男
25	水谷 勝
26	三輪ゆき
27	村井喜司子
28	八代彰邦

※50音順

ワークショップの様子



●河和南部地区のまちづくり目標

河和南部地区は、里山や新池周辺に豊かな自然環境が残る住みやすい地区である。観光施設が多く、人の往来も多いのが特徴の一つだ。地区の発展に向けて豊かな自然環境を残し、都市からの交流人口を増やし、住み良い地区を目指す。

① 自然豊かな田舎、男が元気な地域コミュニティを売り込みます

- ・観光客がたくさん訪れてもらえる地区にする
- ・みんなで楽しめる新しい地区行事を増やし、地区を元気にする

② 遊び心を持って3世代が楽しく暮らせるまちを創ります

- ・住民みんなが楽しむことで、魅力的なまちづくりを進める
- ・地区住民が集まる機会を増やすことで、暮らしの豊かさと張り合いを作る
- ・伝統ある祭りを続けながら、新しい人も参加できる行事に変える

③ (農地+ため池+遊休地) × 空き家 = 都市から人を呼び込みます

- ・地区の情報を集め発信することで、都市農村交流を活発にする
- ・都市部の住民を地区内に呼び込めるような交流機会を創出する

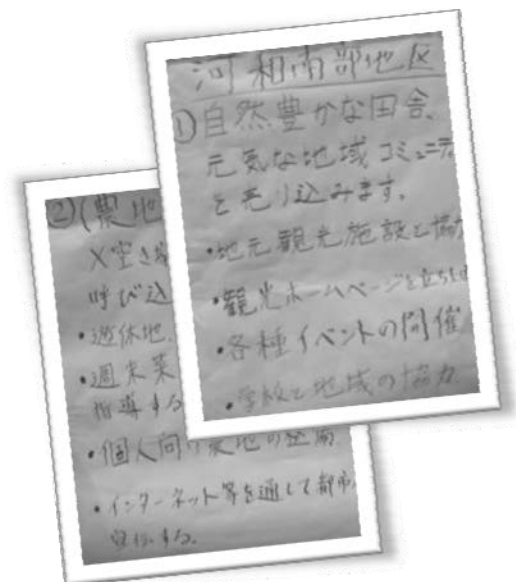
●まちづくりの具体的な行動アイデア

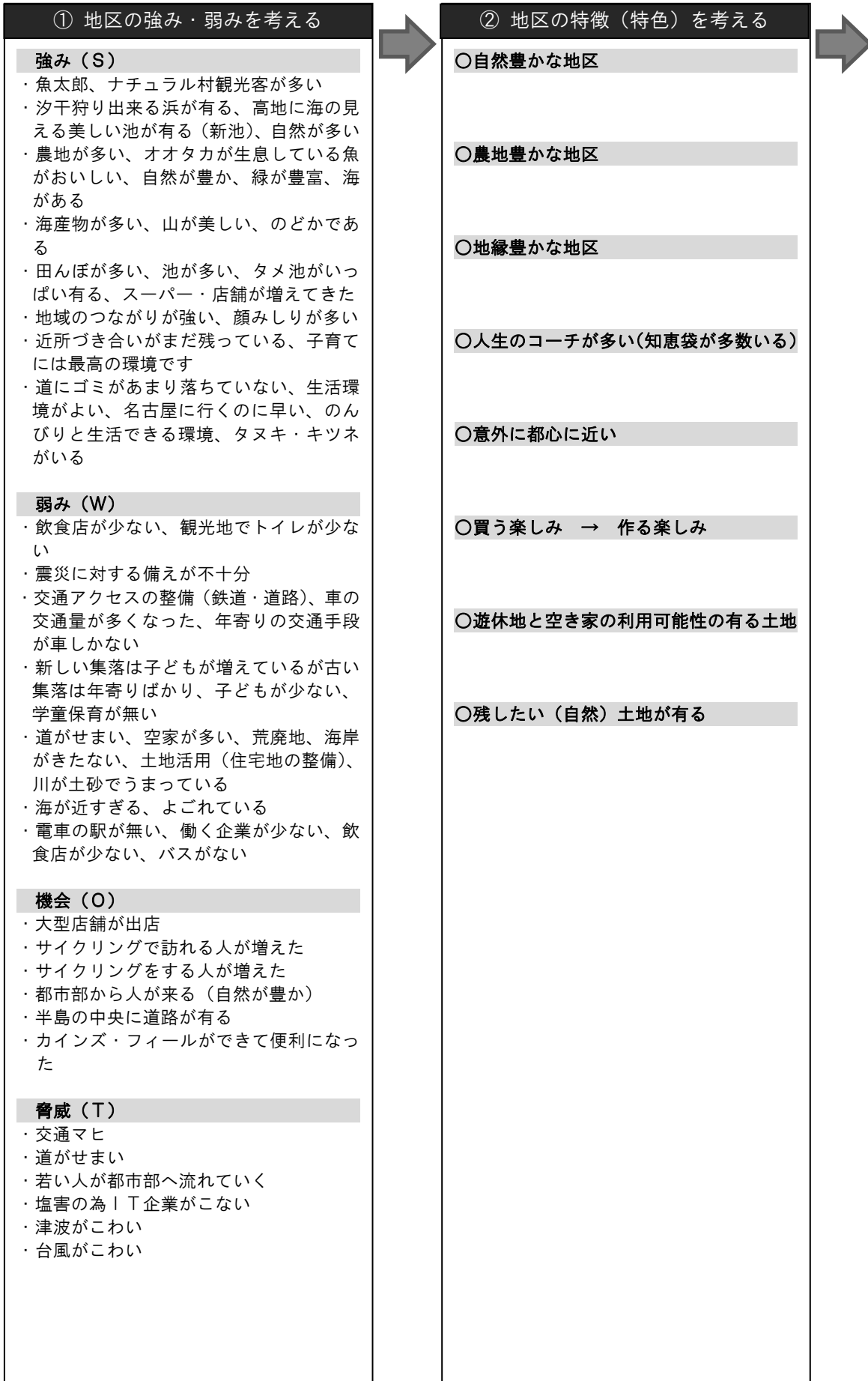
① 地元観光施設と協力する

- 観光ホームページを立ち上げる
- 各種イベントの開催
- 学校と地域の協力を促す

② 遊休地や空き家を把握する

- 週末菜園の利用者に対して指導する
- 個人向け農地を整備する
- インターネット等を通して都市部へ宣伝する





③ 地区のまちづくり目標を考える

△生活（中目標）

- ・宅地が少ない
- ・働く場少ない
- ・買い物便利
- ・交通インフラが良い

△観光（中目標）

- ・地区の観光マップづくり
- ・サイクリングする人が多くやってくる
- ・潮干狩りマップ（駐車場情報）
- ・新池の散歩コース、初日の出スポット
- ・観光客の住宅対策

△人生の楽園、河和南部

△吸引力を高める

- ・2代、3代続くまちづくり
- ・空き家の有効活用

△楽農、農業を楽しむ、振興

- ・農業観光
- ・遊休農地を活用した米づくり
- ・週末滞在型の遊休農地利用、活用
- ・新池の活用（マス釣り場）

△遊び心、遊び心の元

- ・おとな会をつくる
- ・おいしいあさり
- ・防災訓練（炊き出しの訓練）

④ 目標実現のアイデアを考える

□自然豊かな田舎、男が元気な地域コミュニティを売り込みます

- ・あいさつ ・業種をこえたつながり
- ・農家×物販 物販×宿泊
- ・現在ある店などの施設の改善のアイデアをつくる ・地元観光施設と協力し合う
- ・どのような観光施設が可能か話し合う
- ・四季を通して観光スポットを作る
- ・観光客を河和南部でまわす仕組み
- ・観光ホームページを立ち上げ紹介する
- ・皆が集まる機会を作る ・おやじの会
- ・祭りの開催（焚火の会） ・里山での山遊び
- ・池の水を干上げて点検と魚のつかみ取りを行ってみんなが集まる
- ・しきたり ・地区の町なみ

□遊び心を持って3世代が楽しく暮らせるまちを創ります

- ・若い人が趣味で農業を体験できる
- ・家族や地域がそろって遊ぶことができる場所や施設を作る
- ・誰でも参加できるパーティ、イベントを行う
- ・達成感をえることができるボランティアやサークルをつくる
- ・小学校を活用して3世代を通して昔話を語り合う食事会
- ・学校と協力した子どもと住民の創作活動
- ・子ども会、婦人会、老人会等住民団体の連携
- ・みんなで話合える会 ・昔の生活、現代の生活
- ・定例の地区作業 ・連ダコW I I
- ・防災訓練を行う（イモ煮会や非常食の入替をかねた）

□（農地+ため池+遊休地）×空き家=都市から人を呼び込みます

- ・【（農地+ため池+遊休地）×空き家×人の知恵=総ダッシュ村計画】
- ・居住空間のより一層の利便性をはかる
- ・遊休地、空き家がどこにあるのかを集約する
- ・インターネットなどを通して都市部へ宣伝する
- ・週末菜園利用者に対して地元の人が指導する
- ・個人向け農地の整備
- ・長期短期の体験型、栽培、収穫できるシステムを作る
- ・ため池での釣り大会 ・休耕田でのドロンコ遊び ・海産物
- ・新池でカヌー体験やます釣り体験できる環境を作る
- ・都会の町内会との交流運動会
- ・ソフトボール、バレー、つなひき

河和南部地区参加者一覧

1	岸上光男
2	久保文紀
3	久保喜春
4	久保喜幹
5	児玉淳一
6	斎藤 功
7	斉藤辰己
8	斉藤敏光
9	斉藤正吉
10	杉本康寿
11	中野松壽
12	平井兵衛
13	森田和夫
14	森田一将

※50 音順

ワークショップの様子



●野間地区のまちづくり目標

野間地区は、古くから海水浴場が整備され、旅館の多い観光の地区である。高齢化が進んでいるが、住民同士が互いに助け合いながら生活している。地区を発展させるため、地区全体で子育て環境を整備し、住み良い地区を目指す。

①「人情味」「出会い」「会話」にあふれるくらしやすいまちをつくりま

- ・地域のふれあいが増える取り組みをする
- ・人が集まれる行事やサロンを行う
- ・挨拶を通じて近所付き合いを深める

② 子ども4人をめざし、若い家族が住みやすい魅力あるまちづくりに取り組みます

- ・ハードとソフトの両面から子育てをサポートする
- ・子どもを預け、働ける環境を整備する
- ・地区全体で子育て環境をサポートする

③ 豊かな自然と歴史的財産を活かし、『食と健康の館』を拠点に住民にも喜ばれる観光を盛り上げます

- ・観光客にやさしいまちづくりを目指す
- ・地域固有の財産を活かした観光を展開する
- ・観光客が楽しめるように地区内を整備する

④ 日常生活の利便性を高めるしくみやしかけをつくりま

- ・地域経済の活性化を図る
- ・観光客と地区住民の利便性を高める取り組みを始める
- ・移動販売を積極的に利用し、地区で支える

●まちづくりの具体的な行動アイデア

① 子どもを4人以上生む

- ・若い人が離れたくないと思えるまちづくり
- ・出会いの場、街コンなどの実施

② 今ある自然資源・歴史的資源の有効利用

- ・案内所やホームページなどの情報発信の工夫
- ・マスコットづくりや大人のボランティアガイド

③ 豊かな自然と歴史を活かし、観光を中心としたまちづくり



① 地区の強み・弱みを考える

強み (S)

- ・伊勢湾に面している、海がある、
- ・おいしい食べ物がある、海岸が美しい
- ・海水浴、気候が温暖である、空気がうまい
- ・おいしい魚貝が採れる
- ・自然がいっぱいある
- ・野間大坊をはじめ歴史ある寺院が多い
- ・野間灯台、ピオトープ最近出来た
- ・富具崎公園、星きれい、松林がきれい
- ・みかん狩り、緑が美しい、夕日が美しい
- ・学区の区民運動会をはじめ活動が活発
- ・観光スポットがある、空港に近い
- ・ゴルフ場有り、塩づくりの町、潮干狩り
- ・親切な人が多くいる、大学、団結力がある

弱み (W)

- ・近所に子どもが少なくなっている
- ・車がないと買い物が不便
- ・結婚しない人が多い、交通不便
- ・荒地が多く目につく、海が汚れてきている
- ・駅からの夜道は歩いていてこわい
- ・駅の周りになにもない、大きな公園がない
- ・学童保育がない
- ・こわれそうな無人空家が多い
- ・コンビニない、仕事先が少ない
- ・観光資源を十分に生かしきれしていない
- ・週末や季節により国道が渋滞になる

機会 (O)

- ・観光地が多いから人を呼ぶ方法
- ・空港の関連で海岸整備はできないか
- ・自然が美しいので観光客がある
- ・食と健康の館ができて外部からの交流が増えた
- ・他県からくる人が駅からの交通手段がない
- ・他県から大学生が来る
- ・知多中央道インターが近い
- ・道路が便利になった、日本福祉大学
- ・日本福祉大学附属高校
- ・野間地区は寺院が多いので観光に生かす

脅威 (T)

- ・海が近いので津波の不安
- ・交通が不便、護岸が老朽化している
- ・地震・津波など自然災害の恐れ
- ・働く場所が少なく若い人が地区にいない
- ・高齢者ばかりで生活が不安
- ・住民がどんどんへっている
- ・バスが通らなくなった
- ・不便のため人口減少

② 地区の特徴 (特色) を考える

○四季折々の自然

- ・自然豊か、風が強い
- ・灯台がある
- ・海水浴が出来る

○美浜町で一番多い (旅館)

○店がない

- ・店が少ない、夜暗い、

○大坊を中心としたお寺巡りの地区

- ・歴史を生かしたまちづくり
- ・お寺が多い

○しきたり

○生活しやすい地区

- ・ゆっくり生活
- ・人があたたかい

○歴史のある地区

- ・歴史のあるお寺がある
- ・ため池がたくさんある

○水がキレイ

- ・海苔養殖、塩づくり

○歴史的財産

- ・大坊などに代表される古い寺院が多い
- ・歴史ある町

○自然豊か

- ・空気や夕日がきれい
- ・自然が豊か

○人情味

- ・人のつながりが豊か
- ・顔見知りが多い

③ 地区のまちづくり目標を考える

△移動販売から市場から店舗

- ・地元の農作物の販売促進
→地元の集まり、安価
- ・集会の場で移動販売
→売り場の確保、コミュニケーション重視
- ・観光客の人にも楽しんでもらう

△高齢者はもちろん、若い人が住みつきやすい

△子どもを4人以上生む地区

- ・独身者を減らす
- ・若い人が働くことのできる地区
- ・子どもが育てられる地区
- ・地域で子どもを育てる
- ・近所付き合いのあつい地区

△人との出会いがあふれる町

- ・魅力ある地域づくり
- ・若い人が増える町
- ・元気な子ども、老人が多い町

△挨拶の出来る町

- ・絆、まとまりの良い地区
- ・話し合い、希望を持つ

④ 目標実現のアイデアを考える

□「人情味」「出会い」「会話」にあふれるくらしやすいまちをつくります

- ・声をかけ合う ・声かけ運動 ・盆踊り大会
- ・野間公民館祭り ・運動会 ・出会いの機会
- ・地域ごとに「いこいの場」つくる ・極力、声をかけやすいように心掛ける ・出会い、笑顔があふれるサロンを各地で始める ・花火の再開 ・近所づきあい ・隣組制 ・美しい自然を生かし集まる機会を増やす ・地区ごとにサークルをつくる ・ラジオ体操 ・子どものあいさつ

□子ども4人をめざし、若い家族が住みやすい魅力あるまちづくりに取り組みます

- ・海の公園で遊ぶ ・学童保育をつくる ・みんなで子育て ・ファミリーサポートを作る
- ・小学校の空室を利用して、いつでも遊べる場所を作る ・他人の子どもをしましょう
- ・子どもを預けやすい個所を多くし、パートなどに行きやすくする ・学童保育 ・町内で使用できる子育て支援券を配布する ・地域で育てる ・働く場所としての観光農園や道の駅をはじめ農業を大切にする ・若いお母さんの安らげる場 ・同世代の子どもを持つ親同士の交流を深める

□豊かな自然と歴史的財産を活かし食と健康の館を拠点に住民にも喜ばれる観光を盛り上げます

- ・案内所を作る ・観光用絵地図 ・観光の案内のステッカーを分かりやすく立てる ・郷土料理（義朝御膳） ・野間大坊を活かす ・観光ガイドをする高齢者 ・特産を広める ・美浜へ行かなければならない産物を作ってみる
- ・休耕地を利用して美しい花畑を作る ・食と健康の館で軽トラック市を開催する ・各地域にある団体に手伝っていただき現状を維持していく ・灯台前の売店や駐車場の整備 ・観光客を呼ぶ情報の発信 ・食と健康の館のPRを工夫する ・人気施設から他の施設、場所に観光客を回す

□日常生活の利便性を高めるしくみやしかけをつくります

- ・ニコニコ市場を手伝う ・移動販売の充実
- ・ニコニコシール（商品交換シール）を作る
- ・野間港に魚広場を作る ・住民も観光客も喜ぶ朝市を開催する ・移動販売をもっと利用する
- ・週1利用

野間地区参加者一覧

1	奥村幸子
2	片岡敬子
3	神谷勝彦
4	神谷利美子
5	榊原千枝
6	榊原裕文
7	鈴木嘉津江
8	千賀喜代子
9	中須賀 敬
10	中村恒彦
11	夏目 勉
12	夏目安敏
13	畑中久枝
14	原 たつ子
15	久木千鶴子
16	広野勝彦
17	前田 敦
18	前田成一
19	松尾サユミ
20	松野けい子
21	南川政博
22	森田廣行
23	山下照男
24	百合草淳代
25	横田 治

※50音順

ワークショップの様子



●奥田地区のまちづくり目標

奥田地区は、大学キャンパスがあることから若い人が多く住む地区である。アパートのみならず店舗等も多くて活気はあるが、さらなる発展に向けて大学生と地区住民が交流を深め、新しい取り組みにチャレンジしながら、住み良い地区を目指す。

① 大学や学生とともに活動し、交流を深めながら、住む人にとって魅力あるまちを目指します

- ・ 交流拠点を整備し、行事やイベントを盛り上げる
- ・ 学生も含めた地区住民が集まれる拠点を作り交流を深める
- ・ 地区住民が力を合わせ、地区の活性化に取り組む

② 身近な自然を再発見し、観光振興に活かしながら、にぎわいのあるまちを創ります

- ・ 観光の目玉を創出し、環境を整備することで観光を盛り上げる
- ・ 地区の良さを再発見できるように教え合い、発信してみんなに知ってもらう
- ・ 地区の良さを最大限に活かした観光振興に取り組む

③ 日常的なコミュニティ活動や地域交流を活発化させ、安全安心のまちづくりに取り組みます

- ・ コミュニティでやれることから取り組む
- ・ 地区にある大学と一緒に人づくりを行い、防災防犯などに取り組む
- ・ 使われていない空き家を交流拠点として活用し、イベントを通じて地区を盛り上げる

●まちづくりの具体的な行動アイデア

① 大学との連携

- ・ 大学主催のイベント、地区主催のイベントに互いに参加を促す
- ・ 大学と地区の共同掲示板の設置
- ・ 学生ボランティア、学生サークルの活用

② まちづくり

- ・ 交流機能を高める駅前・施設・道路整備の実施
- ・ 文化、スポーツ施設の整備
- ・ 海岸や里山の整備

③ コミュニティ活動

- ・ 大学および大学生との防災訓練の実施
- ・ 公民館活動や祭事への大学生の参加を促す
- ・ 区民総会など、まちづくりを語り合う場を設ける（まちづくりプロジェクトX）



① 地区の強み・弱みを考える

強み (S)

・原発が無い ・居住年数が長い人が大勢いる ・昔ながらの習慣が続けやすい ・小さい地区なので声かけやすい ・住民の人の良さ(協力・協調) ・観光客が多数くる ・海が近い ・自然が多い ・田んぼや畑・里山が多い ・観光スポット ・ビーチランドが有る ・山崩れがない ・街並みの綺麗な所が残っている ・夕日が水平線に沈むのが美しい ・コンビニがたくさんある ・奥田駅がある ・アパート経営がある ・広い川がないので水害がない ・農作物が自由に作れる ・大学があり、若い人が多い ・保育園がある ・日本一の楽鼓がある

弱み (W)

・竹やぶの山が増えている ・地域の結びつきがやや弱い ・暮らしやすいが近所同士むずかしい事もある ・防犯意識の欠如 ・子どもが少ない ・歩道がない、道がせまい ・町なみの整備ができていない ・奥田駅周辺が整備されていない ・活性化しにくい ・渋滞、交通便が悪い ・海岸トイレが少ない ・海岸の整備ができていない

機会 (O)

・自然がたくさんある ・海に恵まれている ・TVで南知多方面の情報番組で紹介される ・海遊祭がある ・何はともあれ道路整備 ・日本福祉大学が来て電車、アパート、商店、町並みができた ・大学、大学生との交流機会が多くなった ・コンビニがふえた ・観光スポットが多い ・ビーチランドと防災との位置付け ・飛行機がよく見える ・空港が近い

脅威 (T)

・住民が便利の良い地域へ出ていきそう ・働く場が少ない ・地震や津波の心配がある ・液状化の心配 ・高齢者が増加している ・人里離れた林間部への不法投棄 ・暴走族 ・外来の車で道が混む ・通りすがりの人の子どもへのいたづら ・学生をねらって不審者が多い ・ごみ出しマナーが悪い ・学生のマナーが悪い ・交通渋滞 ・観光客が激減した ・温暖化による海苔養殖 ・潮干狩り場への悪影響 ・不法採取(アサリ)

② 地区の特徴(特色)を考える

○自然が豊かだが、壊れている

・自然が豊か
・冬西風が強い
・海岸の整備

○働く場所、店や娯楽施設が少ない

・働く場が少ない
・ビーチランド

○コミュニティ意識が欠けてきている

・行事が少ない
・保守的
・地域のまとまりが良い
・コミュニティ意識欠如

○治安が悪い

○大学があり若い人が多く活気がある

・学生が下宿
・若い人(学生)多い
・和太鼓

○自然が遊びの場

・海、山、田畑がある
・農、漁業が盛ん
・美しい空
・ホタルの里山復活

○生活しやすい街

・スーパーやコンビニがある
・観光客が多い
・半端な田舎

○眠らない街

・学生でにぎやか
・各世代が手をつなぐ
・世代間交流

○自然豊かな地区

・農業
・米作
・夕日がきれい

○人を呼ぶ観光スポット

・ビーチランド
・空港が近い

○学生が多く活気がある

・世代間交流
・山車や祭りで活気を
・コンビニがある

③ 地区のまちづくり目標を考える

△自然の整備を住民ボランティアで進める

- ・海岸整備、ゴミ拾い
- ・帰りたくなるふるさと

△子どもからお年寄りまで住民が安心して住める街

- ・歩道をつくる
- ・子どもが遊べる場所
- ・公園の整備

△住民同志の交流を広げるための場づくり

- ・地域交流の拠点、コミュニケーションの場
- ・行事への取り組み（自然を活かす、若い奥様に地域を知ってもらう）

△大学を活かした地域との交流

- ・大学を活かした文化
- ・スポーツ交流

△駅前であうまち

- ・駅前整備などによる活気のあるまち
- ・あいさつを通じた顔の見えるまち

△減災のまち

- ・減災運動会の開催
- ・コミュニティ活動の活発なまち

△自由で気楽なまち

- ・学生と住民の交流や共同プロジェクト
- ・学生が残りたくなる仕掛け、居場所づくり

△地域にある資源を活かして元気なまち

- ・集まるところに人は集まる

△自然が豊かな中で子育てができるまち

△ 学生が来たく（住みたく）なるまち

△学生と地域がもっと連携と一体化していくまち

- ・もっと深めていく
- ・地域の人がもっと身近になる

△ 観光資源を活かしたまち

- ・リピーターを増やす
- ・地域密着

△人の動きを増やす地区そのものの人口が増えていく魅力的なまち

- ・施設
- ・交通インフラ、役場

④ 目標実現のアイデアを考える

□大学や学生とともに活動し、交流を深めながら、住む人にとって魅力あるまちを目指します

- ・地域の人たちと学生が自由に出会い、集えるサロン ・子ども、大人での交流の場 ・公民館まつり ・老人や子供たちが自由におしゃべりできる ・学生とのスポーツ、文化的交流 ・大学のイベントへの参加 ・学生と住民の定期交流会 ・意見交換の場づくり ・地域のイベントに学生が参加 ・観光に力を入れ、人を呼ぶようなイベント ・住民が大学に出入りできるイベント企画 ・大家さんとコミュニケーション ・まちの行事に学生が参加 ・クリーン活動 ・地域でこういった行事があるのを知ると ・有名人を呼ぶ ・経営のノウハウを使って何か売る ・子ども育成についてのサポート ・学童保育に学生ボランティア ・駅下の飲食店など ・まず地域住民と学生が仲良しになること ・にぎやかで活発のある町

□身近な自然を再発見し、観光振興に活かしながら、にぎわいのあるまちを創ります

- ・ボランティア活動での環境浄化 ・歩道の見直し ・山王川に桜を植樹 ・道路や海岸をきれいにする ・里山整備を復活 ・ネットを活用した観光PR ・“うんね”を使ったB級グルメの開催 ・ゆるキャラ ・大型娯楽施設の誘致 ・歴史的な跡地等の再発見 ・海苔作り体験 ・恋の水神社周辺の整備 ・大学が美浜の良さを発信 ・回覧板の活用 ・学生とのプロジェクトX ・ビーチランドの活用 ・干潟と里山の再発見（遊びをまちの目玉に） ・小中学校での地域や里山学習 ・住民が歴史や自然を伝える ・耕作放棄地で花を植え、色彩りをよくする ・竹炭を売る ・新たな地元の特産品開発 ・農業、畜産、水産業の体験学習 ・海釣りイベント ・日本一長い流しそうめんを竹でつくる ・まちをキレイにする活動 ・「道の駅」（観光拠点に）

□日常的なコミュニティ活動や地域交流を活発化させ、安全安心のまちづくりに取り組みます

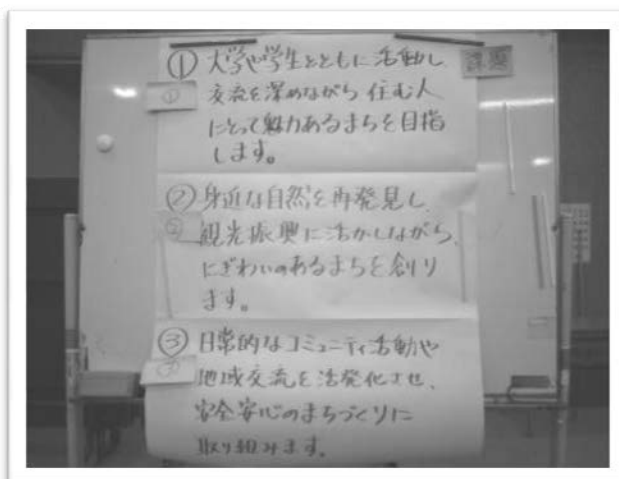
- ・住民相互のあいさつ運動 ・地域づくり拠点としての公民館活動 ・安全な歩道 ・交通マナー教育 ・防災運動会、防災マン体操 ・学校行事の活用 ・情報発信 ・大学との交流事業 ・大学と住民と一緒に防災訓練、災害マップ、防災防犯ボランティア養成 ・地域交流で頼れる人づくり ・空家の有効利用 ・空家を使って学生の力でいろいろなイベントを行う ・高齢者と学生の交流を活発に ・日頃のコミュニケーションが出来る場をつくる

奥田地区参加者一覧

1	磯部利之
2	磯部信子
3	大野重治
4	田口信行
5	田島幸子
6	都筑恵美子
7	出口利治
8	永田哲弥
9	西田林治
10	野田映美
11	野田由美子
12	長谷川数雄
13	畑中美佐紀
14	花田真由美
15	久綱まち子
16	日比義房
17	廣重弘和
18	山本せつ子
19	吉田政男
20	渡邊眞吉

※50 音順

ワークショップの様子



●上野間地区のまちづくり目標

上野間地区は、古くからの居住区と新しい居住区がある複合する地区である。また、伝統ある祭りを継承しているほか、自然環境も豊かで、海や鵜の山などもある。住民同士が交流を深め、地域資源を活かした観光の活性化や時代に合った伝統文化の継承を通じて、住み良い地区を目指す。

① 区を主体とする地域ボランティアによって、助け合いの輪を拡げます

- ・ 上野間公会堂の有効活用を考える
- ・ ボランティアやサークルによる相互扶助を行う
- ・ 声かけ運動、おせっかい運動を展開する

② 伝統ある祭りを継承しつつ、より多くの人に参加できる行事に取り組みます

- ・ 子どもや女性も参加できる、今の時代に合った祭りにする
- ・ 伝統ある祭りを現在のものへ変えていく
- ・ 行事やイベントに関する情報発信を行い、広く知ってもらう

③ 鵜の山や海などの観光資源を活かし、われわれと観光客とのふれあいの機会をつくります

- ・ 鵜の山、緑苑、上野間を巡るウォーキングコースや観光漁業を整備する
- ・ 鵜の山や海などの地域資源を活かした観光整備を進める
- ・ 鵜の山や海岸を整備し、漁師体験などのツアーを充実させる

④ まちの人口を増やす

●まちづくりの具体的な行動アイデア

① 誰もが気軽に立ち寄れる場の提供

- ・ 公会堂（集会所）の有効活用
- ・ ボランティアやサークル活動でも有効活用
（高齢者世帯の生活介助・移動販売車での送迎・お茶飲み会）

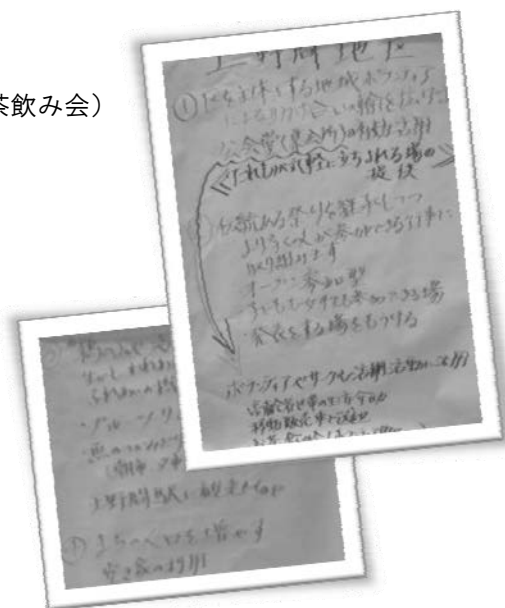
② 伝統ある祭りをオープン参加型にする

- ・ 子どもも女性も、発表する場を設ける

③ ブルートーリズムの実施

- ・ 魚のつかみ取り、魚の販売（朝市・夕市）
- ・ 上野間駅に観光マップ

④ 空き家の有効活用



① 地区の強み・弱みを考える

強み (S)

- ・ 鵜の池がある、海がある、気候が温暖
- ・ 空気がきれい、潮干狩り、自然が豊か
- ・ 海苔が採れる、メダカがたくさんいる
- ・ 近所どうしのつき合いがある
- ・ 固定観念が少なくなった、子どもが元気
- ・ 七度参りが続いている
- ・ 小学生がきちんとあいさつができる
- ・ 上下関係がしっかりしている
- ・ 情報化が進み因習がやわらいだ
- ・ 治安が良い、地域の絆、伝統がある
- ・ 年寄りが多い、隣近所仲がいい
- ・ なじみやすい人たちであるコト
- ・ 人間が明るい、人が良い
- ・ 人と人とのつながりが強固

弱み (W)

- ・ 明るい建物が少ないから夜は危ない
- ・ 空家が多い、駅が無人
- ・ 駅周辺が危険である、喫茶店がない
- ・ 地域の商店がない
- ・ 中学生の自転車通学路がせまい
- ・ 電車の運賃が高い、道路がせまい
- ・ 名古屋から遠い、夏場に道路が混雑する
- ・ 歩道が少ない、本屋がない
- ・ 因習にとらわれる人が多い
- ・ おせっかいが多く、行事事が男社会
- ・ 高齢化してきている、子どもが少ない
- ・ 女性が強い、女性の意見が反映されない
- ・ 人口が少ない、男女共同参画の意識が低い

機会 (O)

- ・ 鵜の池周辺の自然を生かす
- ・ おいしい魚が採れる
- ・ おいしい農作物が採れる
- ・ 海岸の活用余地がある
- ・ 空気が良い場所で住みたい町である
- ・ 空港が近くになり利便性がよい
- ・ 子どもが増えて教育熱心になった
- ・ 自然の恵みをもとめて観光客がふえた

脅威 (T)

- ・ 5年後に小学生が40%減少
- ・ 介護サービス町外の事業所に頼っている
- ・ 主道路が少ない、悪臭がひどい
- ・ 海に囲まれている、災害に不安
- ・ 海岸が観光に開放されていない
- ・ 買い物は他市町に頼ってしまう

② 地区の特徴 (特色) を考える

○自然が豊か

- ・ 自然が豊か、鵜の繁殖地がある
- ・ 海がある
- ・ 星がきれい

○伝統があふれる

- ・ 人が温かい、人情がある
- ・ 祭りを大切にしている
- ・ 古い伝統が残っている

○自然環境が美しい町づくり

- ・ 潮干狩り、鵜の山
- ・ 緑が多い、海の景観が美しい

○伝統文化が豊かな街です

- ・ 古き良き伝統、祭りがある

○住み良い安全な街です

- ・ 安全で住み良い

○しきたり、しがらみが強い地域です

- ・ ロコミおばさん
- ・ 付き合いにお金がいる

○若い人が少なく高齢者が多い街です

○人と人とのつながりが強い

- ・ 人情、おすそわけ
- ・ (裸) 祭りがある

○豊かな自然、便利性

- ・ 海苔の産地
- ・ 鵜がいる
- ・ 特急が止まる駅

③ 地区のまちづくり目標を考える

△人材バンク

△高齢者の活躍できる場

△上野間全体を花でいっぱいにする

△お年寄りの町にしてみる！？

△たまり場をつくる

△地域全員で住み良い美しい街並みにする

- ・花と緑の町づくり
- ・クリーン活動、除草

△地区のイベントでもりあがろう

- ・女性も祭りに関わる
- ・みんなで参加できる行事

△地域での相互助け合い

- ・地域ボランティア

△声をかけあって明るく楽しい街に

- ・防犯、防災の強化
- ・住民への声掛け

△観光・スポーツの振興

- ・サイクリングマップの作成

△安心安全の明るい町

- ・門灯の設置、明るい通りをつくり防犯
- ・安全のため、誰にでも声を掛ける
- ・子どもを安心して育てられる

△自然を生かした町

- ・憩いの場
- ・花いっぱい運動

△継承

- ・写真コンテストの開催
- ・伝統文化の継承、横のつながり強固



④ 目標実現のアイデアを考える

□区を主体とする地域ボランティアによる助け合いの輪を拡げます

- ・資格 ・特技などの調査をする
- ・各個人が持っている資格を集める
- ・上野間イベント案内所
- ・学童保育！！ ・おすそわけ隊結成
- ・上野間の情報がなんでも分かるような場所を作る ・公民館＋公会堂を利用する
- ・気軽に立ち寄れる場の提供
- ・集う場づくり（古民家カフェ）
- ・何々ボランティアと種類を決め募集
- ・お茶飲み会→ボランティア集団へ
- ・PTA、老人会、消防団等への参集
- ・高齢者の声掛けボランティア
- ・高齢者サークル発足と支援
- ・移動販売車で送迎 ・住民タクシー
- ・高齢者世帯への生活介助
- ・地域ボランティア通貨
- ・子どもの見守り

□伝統ある祭りを継承しつつ、より多くの人が参加できる行事に取り組みます

- ・花のコンクール大会
- ・行事後写真コンクール
- ・CATVなどメディアを利用し、他地区へも祭りを紹介する機会をつくる
- ・子どもや女性が参加できる行事にする
- ・祭りの若い衆のルールを変え、女性も参加できるようにする
- ・新たなルールの取り組み
- ・発表する場面を作る
- ・学校で祭りのポスター
- ・夏祭り等地域イベントの盛り上げ
- ・上野間の伝統行事への参加
- ・祭りのポスター
- ・裸祭りに変える、オープン参加にする
- ・裸まいりと七度まいりセットにして裸祭と変化

□鵜の山や海などの観光資源を活かし、われわれと観光客とのふれあいの機会をつくります

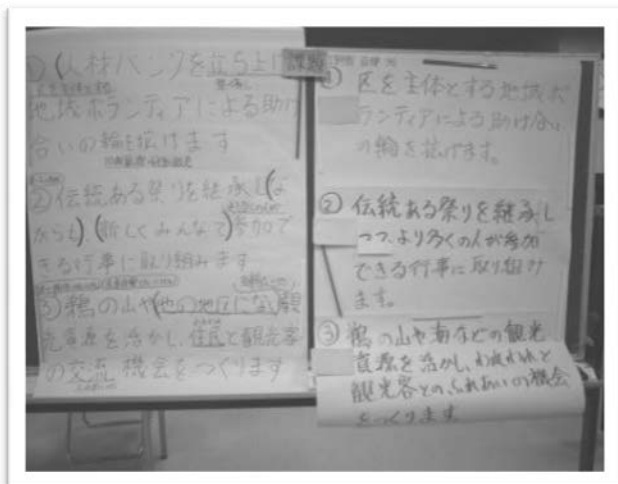
- ・空き地利用のフラワーガーデン
- ・オープンガーデンをつくる
- ・里山体験ツアー
- ・ブルーツーリズム
- ・朝市は地元民、夕市は観光客向け
- ・漁業体験を多くの人にしてもらう
- ・漁業ヘルパー ・漁師体験ツアー
- ・漁家民泊を行う ・竹編み体験ツアー
- ・鵜の山の観光化、イベント集客を考える
- ・鵜の池整備 ・看板の設置 ・遊歩の道整備
- ・鵜の山さくら、もみじ ・鵜の山を明るく
- ・海岸整備 ・海岸トイレの整備 ・歩道整備
- ・ジョイフル周りを観光公園 ・B級グルメ
- ・家の前に花を置く

上野間地区参加者一覧

1	天木とし子
2	天木 寿
3	磯部千鶴
4	鷗海一雄
5	大崎卓夫
6	大崎秀樹
7	川上英雄
8	小島康資
9	齋藤悦子
10	高浪保枝
11	谷川廣子
12	中野謙一
13	沼田三枝子
14	原 真理
15	平野勝志
16	廣澤節子
17	廣澤洋子
18	廣澤嘉成
19	堀田吉広
20	松下正義
21	山本紀子
22	山本美紗

※50 音順

ワークショップの様子



ワークショップ全体の考察

4回にわたって開催された地区別まちづくりワークショップでは、多くの地区で議論された共通課題として、「学童保育等による子育て環境の整備」、「雇用の場の確保」、「体験型観光を中心とした交流人口の増加」、「世代を超えた住民間の絆づくり」の4点が挙げられた。

住民は少子高齢化に伴う人口減少やまちの活力が弱まることに対して強い危機感を抱いている。若い世代の転入を増やし、なお転出を防ぐために、「学童保育による子育て環境の整備」および「雇用の場の確保」が課題として挙げられた。若い世代が住み続けたいと思えるまちづくりは喫緊の課題であり、安心して子どもを産み、育てられる環境、そして町内に働く場があるということは、居住地を選択するうえで重要な要因となり得る。

一方で、雇用の場および生活利便性の高さを求めて、都市部に人口が集中する傾向は今後も変わらないことが推測される。単に町内の定住人口の増加を求めるだけでは対策として不十分であることから、美浜町の自然資源と歴史資源を活用した「体験型観光を中心とした交流人口の増加」が課題として挙げられた。体験型観光のスタイルは様々で、日帰りや宿泊、週末滞在を想定した各種のアイデアが取り上げられた。いずれの場合においてもインターネットや駅前での有効な情報発信が最大の課題である。

また、地震や津波などの大規模災害に対する不安感から、災害時における住民間の助け合いはもとより、地区行事などの日常的な住民間のコミュニケーションを高めていくために「世代を超えた住民間の絆づくり」が課題として挙げられた。具体的には、炊き出し訓練を親子で楽しめる工夫、これまでの伝統に縛られない性別・世代を超えた参加促進の工夫などである。これらは同時に、高齢者の一人暮らし世帯の見守りネットワークや交流機会の強化としても位置付けられ、若い世代のみならず、高齢者でも住みやすい、住み続けたいと思えるまちづくりを必要としていることが明らかとなった。

地区別まちづくりワークショップでは、住民が自ら地区の現状をふりかえり、地区の特徴を考えながら、まちづくりの目標設定と具体的な行動アイデアを検討した。しかしながら、これまで議論した内容をまとめるだけでなく、行政と役割を分担しながら、地区の中でどのようにアイデアを具体化し、実現に向けて行動していくかが課題である。同時に、地区を超えてまちづくりを考えなければならない領域もあることから、住民一人ひとり、地区、美浜町、知多半島それぞれの広がり意識しながら、協働によるまちづくりに取り組む必要があるといえる。

地区別まちづくりワークショップ全体報告会での参加者の意見

○布土地区

- ・ 住民のみの力ではやはり限界がある。この様な機会をもっと増やすべきだと痛感した。
- ・ 各地区とも思う事は大体同じだと思う。出来る事から一歩ずつ進んでいきたいと思う！
- ・ 自主防災組織によりコミュニティを図り、色々な事につながりを期待し、山車まつり、運動会、盆踊りなどに生かしたいと思う。
- ・ 意見の中でどんな小さな事でもすぐ実行できる事から実行したいと思う。
- ・ 計画を立てることは大切だが、それを実現することは難しいことだ。しかし、自らが行動することで一歩でも前進できればと思う。
- ・ 町の問題点、良い所。この町に住んで 20 年になるが、知らない事が多くあった。町の絆、人の絆、幸せになるための具体的なアイデアや改善案が、実際に行動に移るところまでできないのは残念だ。
- ・ 反省を込めて、せっかく布土 → 美浜を良くし、ずっとお世話になるためにも、大好きであり続けるためにも、この会がこのままでは情けないなあと思った。
- ・ 多くの方は共通の問題意識を持っているが、方法がわからない人が多いように思う。
- ・ 他の地区に比べて、布土は保守的さが際立っていた。外に対してのつながりが大切だと言えば「中が空洞化では・・・」というが、これほど地区内のつながりが強い地区はないと思う。元美浜町外の自分だが、あと、行政を責めても何も生まれないのだが、10 年前と今と同じ意見が出たのは自分たちの怠惰だということに気付くところから一歩がはじまると思う。

○河和地区

- ・ 学童保育所ができることはとてもうれしいことだ。しかし、以前に一度計画倒れに終わってしまった事が、不便な所にあったからと思われているだけだとしたら、河和小に作っても長く続かないかもしれない。利用する側に立った学童保育所づくりをお願いしたい。お母さんが困るのは、4 月の入学直後の給食のない間と夏休み期間だ。9 月からでは遅いと思う。
- ・ まちを愛し、良くしようと思いを寄せる気持ちはそれぞれあっても、全体をひとつにまとめることは難しいと改めて感じた。また、作業の中で具体的に出ていたことが、大きい目標となるとまた具体的でなくなってしまうため、共通認識がとれないこともあった。

- ・ 具体的なイメージを共有し、まちづくりに取り組んでいきたいと思う。また、次期計画に活かして欲しいと思った。
- ・ ワークショップに参加して、皆が美浜を良くしたいという思いがあるのは分かったが、現実のものとするには、もっと多くの美浜の住民の協力が必要だと思った。
- ・ 簡単なことからでいいので実行をお願いしたい。
- ・ 皆様の快活な意見にたじたじしながらも感心した。また、もっと若い方にやっていただいた方が良いかと思った。
- ・ 絵に描いた餅にならぬよう、細かい身の丈にあった実現可能なことから始めるべき。市民農園等をネットで配信し、多くの外部の人に来町してもらう必要がある。
- ・ 色々意見や提案があった。この結果が少しでも取り上げられ、町の活性化、住民の幸せが実現できるよう期待している。
- ・ 何か形式的に流されて、10年の差を感じるばかりだ。もう少し現実的な泥くささがあって良いかと思う。
- ・ もっと若い世代が参加しての意見がないと未来は厳しいと思う。
- ・ 年齢別のワークショップもあって良いと思う。せめて20歳～40歳で1つくらい。
- ・ 活性化に向けて議論し、目標を決めたが、これを実現させることが一番大切だ。過去の総合計画で達成出来たこと、出来なかったことを整理して、行政も計画を立てるだけではなく、各地区と協力して実施する体制を確立してくれることを願う。

○河和南部地区

- ・ 何をどうすれば、その方向性を具体化できるかという不安が募った。もう少し具体的な話し合いが他団体も含めてできたらと感じた。
- ・ この会が作りあげた将来の計画が、絵に描いた餅にならないように、我々も町もまちづくりに参加していただきたいと強く思った。
- ・ 各グループ構成を小学校単位ではなく、ある程度バラバラにしたほうが良いのではないか。
- ・ 大変よかったと思う。
- ・ 町民の方は素晴らしいと思った。
- ・ できること、できないことは多々あるが、どんなことでも話し合い、発想することが大切だと感じた。
- ・ 地区別行動計画については、地区で責任を持って行動しないと、計画倒れになると思う。

○野間地区

- ・ 子どもを育て、明るく生活できる町を住民みんなで作っていくべきと思う。
- ・ 100人近くの住民が一丸となり、長時間にわたって行動を考えている。
- ・ 最後に意見があったように、この計画が策定できた折には実行の方も真剣に取り組んでいただきたい。
- ・ みなさんが良い町にするために考えたことを実現できるようにしていかないといけない。みなさんの意見が素晴らしかった。
- ・ 参加者は年齢をもっと幅広く募集してほしい。20代、30代が少ない。60歳以上が多すぎる。これから10年先の事だから若い人の意見が欲しい。
- ・ この会を行うことによって、どこまで行政が対応してくれるのか？美浜町民として、美浜町が活性化されることを願う。
- ・ 自分の地区の新たな発見が出来た事に感謝したい。良かったと思う。
- ・ 若い世代をなるべく増やしていきたい。
- ・ 良い美浜町に発展して欲しい。住みやすい町を作って行きたい。
- ・ 地区別でいろいろな話が聞けて勉強になった。地域まわりの連携が大切だ。買物の不便さもわかる。何か協力ができればと思う。
- ・ 1つの地区で話すにはスペースや人数が適切でないと思った。それぞれの地区の貴重な意見発表があつて良かった。
- ・ 時間だけ経過して消化不良だ。参加された人の意見は今後反映して欲しい。
- ・ ワークショップに参加出来た事に感謝したい。美浜町に住んで良かったと思う。
- ・ 野間地区は若い人が少ないので若い人が住める町を。
- ・ 行政まかせではいけないと思う。自分達のこととして考えたい。
- ・ 美浜町に住んでよかったと思った。美浜が愛されるようなまちづくりを！
- ・ これまでワークショップという言葉も何も知らなかった。もっと町民に広めてもらいたい。
- ・ 例えば、第4次総合計画の学校教育の項目は「心身ともに健康で主体的に考え行動できる児童生徒の育成」とある。これは教育自体の目標であつて美浜町の学校教育において何が行われるか伝わってこない。次期計画ではもっと具体的に。

○奥田地区

- ・ 美浜を大好きになつてもらえる町にしたい。
- ・ 各地区の話、意見を聞くことが出来て良かった。今回は、前回と違って取り組むことの出来る話が聞けた。地域づくり、まちづくりに少しでも役立てたい。
- ・ この会に参加するまでは、町の予算が無ければ何もできないのではないかという諦めのような気持ちがあつたが、話し合いを重ねるにつれ、人の力だけでもできるこ

とがあると分かった。区民が集まることの場所づくり、そこで話し合われた内容を汲みあげる行政の窓口づくりが、まず必要なのではと思った。

- ・ 農業で自立できるようになると良い。大きな企業に頼ることなく、安心して生活したい。名鉄電車をもっと活用しよう。
- ・ 奥田や他の地区もよくなるよう願いたい。責任を一人ひとりが考えてやる事が色々な事につながると思う。
- ・ 美浜町に嫁いであまり考えた事はなかったが、良いキッカケとなった。
- ・ ワークショップの冒頭に前回（10年前）の結果を報告してほしかった。
- ・ 各地区で自分たちでできる事を話し合っ、自分たちで町づくりのきっかけづくりをしている事が上手に伝わっていないような気がした。
- ・ 今回のワークショップで出された意見を着実に実行に移していき、住み良い町となることを希望する。今回のワークショップに参加して、自分自身も住んでいる町について考えることができ、良い機会となった。
- ・ ぜひとも、この時間を無駄にせず実現していただきたい。
- ・ 各地区でできる目標を1つ設定し、検証をしていくのはいかがか。
- ・ 第4次総合計画から第5次総合計画へのつながりを大事にして、ぜひ良い計画を作成して欲しい。（飲み物が欲しかった）

○上野間地区

- ・ 第1回目の会合の時から、第4次総合計画の反省もないまま次の計画を考えることは、本当におかしいと思った。また、町政の事なのに大学へ依頼し、町役場や町議会は何をしているのか。最後に、ボランティアと理解してはいるが、お茶すら出ない会議は他で経験したことがなかった。大学もボランティアだったのか。
- ・ 10年スパンの総合計画ではあるが、目標、プランはなかなか進んでいないのが現状だ。地区住民で出来ること、やらなければならない事は多くある。今後、具体的な行動プランを立て、行政の支援も受けながら進めていく必要があると思う。（例、交通安全、防犯、介助、子育て支援など）
- ・ 各地区での計画を、計画のみではなく“事”を起こしていきたい。この地区で“空き家”利用の必要性を感じた。古民家鑑定士の資格を十分に生かして、この美浜で動いて行きたいと再確認できた。
- ・ 正直なところ、本日出されたアイデアの中で実効性のあるものはそれほど多くはないと思うが、多くの方が共通の話題を感じていることが分かった。
- ・ 第4次総合計画でできなかったことをふまえて、第5次総合計画でひとつでも実行されればと思う。各地区の意見が聞けて良かったと思う。

- ・ 空き家、人口の増加、働く場所。子どもから老人まで心豊かに暮らしていける美浜になる事を心から願った。
- ・ 年に一度ほど見直しをすべきだ。
- ・ 町に頼る部分を、住民が自分で努力するようにすべき。
- ・ 商店街がにぎわっている町には何かの魅力があると思う。そんな魅力を美浜にも見出せたら良いと思う。思いだけではなく実行が伴うと良い。
- ・ 現実 is 厳しい、難しい、方法がない。

以上